反帝戦線

No.19 68.7.7
社会主義学生同盟全国委員会機関紙

□帝国主義の世界分割＝侵略反革命に対決し、プロレタリア国際主義の革命的第3潮流を建設せよ！

□8／3国際反戦集会（於東京）に結集せよ！

□日帝のアジア侵略反革命＝70年安保粉砕へ向け、革命的反戦斗争を推進せよ！

□7／29ＡＳＰＡＣ粉砕－三木外相訪豪阻止中央実力斗争へ結集せよ！

□全学連－反戦青年委員会をプロレタリア統一戦線としてうちかためよ！

□7／19 20全学連定期大会へ結集せよ！

≪全学連大会へ向けての我々の主張≫

10／8羽田斗争が切り開いた新たな階級斗争の局面を総括し、70年安保～70年代階級斗争の展望を明確化することこそ、7月全学連大会の任務である。かかる方向性に於いて、我々は、7／29ＡＳＰＡＣ粉砕－三木外相訪豪阻止中央実力斗争と、8／3国際反戦集会（於東京）を提起するのである。

70年安保～70年代階級斗争は、革命と反革命の激突の時代であり、全学連－反戦青年委員会は、プロレタリア統一戦線として登場しなくてはならない。それは、同時に、戦略－戦術的指針を要求するのである。

諸党派が、このことを要求され、独自に、総括と展望を提起してきた。そのことが、10／8斗争以降の党派斗争の全面化と大衆運動の分裂をもたらしてきた。だが、この党派関係の流動、分解は、8／15集会－7月全学連大会－8月国際反戦集会の過程で再編され、70年安保～70年代階級斗争に於る原型を形成しつつある。

我が同盟と中核派・全学連の主導権こそ、この党派関係の再編の焦点である。

Ⅰ 国際階級斗争の結合と攻撃型階級斗争

帝国主義の世界分割＝侵略反革命の全面化が、戦后帝国主義「世界体制」＝国際的相互関係の再編と、国際階級斗争の結合をもたらしている。

帝国主義の世界分割の焦点は米帝に対する西独・日帝の再分割であり、ＮＡＴＯ・日米安保の再編が進んでいる。

50年代後半以降の高度成長＝内的膨張に於て、米帝と同質の産業構造＝重化学工業化を実現したＥＥＣ・日帝は、60年代前半の構造的不況を転機に、対外膨張＝世界分割を開始した。仏帝はアフリカ・東欧へ、西独帝は中近東へ、日帝は極東・東南アジア・太平洋地域へと、その方向性を設定している。

この経済に於る帝国主義の国際的相互関係の変化は、軍事に於る国際的相互関係の変化をもたらす。

米帝にあっては、史上最強の軍事力と相対的に低下しつつある経済力の落差が、鋏状的に拡大し、ＥＥＣ・日帝にあっては、拡大した経済力に対応して、軍事力の強化が進んでいる。このことが、ＮＡＴＯ・日米安保の再編をもたらしている。

仏帝は、ＥＥＣの経済力、アフリカ旧植民地の統合の上に、ＮＡＴＯ脱退、独自の核武装を実現した。西独帝は、ＮＡＴＯ中央正面軍（対ソ戦線）の軍事力を集中的に強化し（21個師団中、米＝5個師団に対し、西独＝12個師団）、ＮＡＴＯの主導権を掌握せんとしている。

だが、仏帝は、ＥＥＣに於る西独帝との経済競争戦での敗北→経済危機→五月ゼネストによって、独自での世界分割に挫折し、対西独＝米との同盟か、対米＝西独との同盟かの選択を迫られている。

従って、始まりつつある帝国主義の世界分割の基本的特徴は、米帝に対する西独・日帝の再分割であり、それは、ＮＡＴＯ・日米安保の再編をもたらしている。

この世界分割は、世界の独占支配のための帝国主義の動向であり、「労働者国家」や後進国階級斗争への侵略反革命として進行する。

帝国主義国・後進国・「労働者国家」の3ブロックの階級斗争は、根本的には帝国主義の存在に規定され、直接的には帝国主義の世界分割＝に規定されて、この経済的政治的基礎の上に単一化され、この全体の個々の環を形成する。

後進国階級斗争は、帝国主義の侵略反革命、これと結合した民族ブルジョワジーに対する農民－プロレタリアートのブロックの武装解放斗争である。戦後植民地独立運動も、帝国主義に対する民族ブルジョアジー－農民－プロレタリアートのブロックとして展開した後進国階級斗争は、戦後先進国革命の敗北とスターリン主義の体制内矛盾＝二段階戦略によって、民族ブルジョアジーの下に収納された。そして、民族ブルジョアジーに対する農民プロレタリアートのブロックの階級斗争は、民族ブルジョアジーの反動化と帝国主義との結合を媒介に、自国ブルジョアジー打倒→帝国主義打倒の永続性をカク得した。それは、まず、第2次大戦～56年スエズ動乱へ至る過程で、全一的に後進国を支配した米帝との対決を開始し、来るべき西独、日帝の後進国支配との対決を必然化しつつある。

「労働者国家」は、スターリン主義の一国社会主義路線によって歪められた過渡期社会であり、階級斗争が継続している。それは、帝国主義の侵略反革命だ。内部の一国経済建設の困難性と結合する時点で全面化する。国内に於る民族ブルジョアジー－小ブルジョアジーに対するプロレタリアートの斗いは、この帝国主義の侵略反革命との対決を通して、後進国人民武装解放斗争、帝国主義国プロレタリアートの斗いと結合する。キューバ、北ベトナム、中国のプロレタリアートは、周辺の後進国人民武装解放斗争への援助、これへの帝国の侵略反革命との対決を通して、明確に国際階級斗争の一環を構成しつつある。東欧に於る自由化の要求は、ソ連と結合した国内建設の困難性に対する小ブル、労働者階級の不満が仏、西独帝の対外ボウ張＝経済的分割との結合、ソ連との分離として流出した結果である。仏、東欧「労働者国家」のソ連からの分離は、ソ連の国内経済建設を困難に陥し入れ、階級対立を激化させざるをえない。東欧、ソ連に於る階級対立は、東独を中心とする鉄の三角地帯に於る労働者階級、小ブルの不満の爆発と、西欧、とりわけ西独帝が、ソ連、東欧への政治的、軍事的な分割＝侵略反革命を開始することとを契機として、西欧階級斗争と結合する。

帝国主義国に於る階級斗争は、直接的なブルジョアジーとプロレタリアートの対立であり、帝国主義の運動　即、対内的には独占→金融資本→金融寡頭制の進行（国内抑圧と、対外的には資本輸出→世界の経済分割→世界の政治的分割の進行（侵略反革命）によって、非和解化する。

かかるブロック内部の階級斗争の力関係は相互に規定しあい、帝国主義の世界分割＝侵略反革命を媒介に、帝国主義国に於る階級斗争の力関係に発展、転化し、かつ、帝国主義国の階級斗争の力関係は、後進国、「労働者国家」の階級斗争のを根本的に規定する。

帝国主義国に於る、現局面の階級斗争の特徴は、社会排外主義の促進→小ブル民主主義の形成→そのファミニズムとプロレタリア国際主義への必然分解である。

米帝にあっては、ＡＦＬ＝ＣＩＯの帝国主義的労働運動の内部から、ＥＥＣ・日帝の台頭→経済危機と、ベトナム－アジア－中南米人民の武装解放斗争への敗北→政治的危機の2要因によって、黒人斗争と反戦斗争の高揚が形成された。他方、西独、日帝にあっても、労働者階級の反撃が開始されている。西独帝は、ＥＥＣ、東欧、中近東の経済的制覇の展望のもとに労働者階級を収約し大連合政権してきた。しかし、侵略反革命の軍事外交路線を、それを可能とする帝国主義軍隊を基軸とする国内支配体制の強化は、非常事態法と対決する学生労働者の鋭い斗いを生み出した。そして、西独帝の台頭に対抗した東独－ソ連の強硬路線は大連合政権、従って国内階級関係の再編が不可避であることを明示している。日帝も、日韓条約を突破口に、極東、東南アジア、太平洋地域への経済的膨張の下に労働者階級を吸引してきた（民社－同盟、ＪＣ）。だが、ベトナム－アジア人民の武装解放斗争の拡大と、それへの侵略、反革命の軍事外交路線の強化は、反戦斗争を頂点とした労働者階級の反撃を形成している。

社会排外主義は、第1次帝国主義世界戦争へ至る帝国主義の社会的支柱であり、後進国人民武装解放斗争と「労働者国家」の存在を要因とする、社会排外主義形成の条件の縮少は、帝国主義の危機の第1の特徴である。

第2は、小ブル民主々義の膨大な形成とそれが、スターリン主義として固定化していることである。

「帝国主義の政治的特質は、金融寡頭制の抑圧と自由競争の排除とに関連するあらゆる方面にわたる反動と民族抑圧の強化とであるから……ほとんどすべての帝国主義国において、帝国主義に対する小ブルジョア的＝民主々義的反対派があらわれている」とレーニンは、小ブル民主々義を規

国主义ナショナリズムと最も鋭く対決する策を有しているのである。かつそれは、一方では、70年安保＝日米反革命同盟との対決を最後、ますます強めていくアジア人民武装解放斗争に、民族解放↓日本革命との結合↓社会主义への方向性を与え、かつ、他方では、米帝の侵略反革命と対決している米国の反戦斗争、黒人斗争と、最も深い質に於て結合することを可能にするのであり、この意味で、70年安保斗争に於て、日本プロレタリアートが実現すべき、プロレタリア国际主义の内実を有しているのである。

我々は、かかるプロレタリア国际主义の下に、日帝のアジア侵略反革命＝軍事外交路線との対決＝反戦斗争を、単なる政策反対斗争の次元にとどめるのではなく、明確に、日帝打倒―プロレタリア独裁を展望する権力斗争として斗うのである。反戦斗争をプロレタリア权力斗争として斗い抜くこと、これが、我々の主張する革命的反戦斗争である。

我々は、その斗争戦術を、中央权力中枢への実力斗争として展開する。ASPAC粉砕・沖縄前線基地化阻止、成田空港建設阻止、自衛隊の強化阻止等の、具体的な政策阻止斗争を、かかる軍事外交路線の権力中枢たる、防衛庁、外務省への中央実力斗争として、反帝的な部隊の結集を以って斗い抜き、権力への肉迫の一層の深化を以って、日帝の侵略・反革命粉砕↓日帝打倒、プロレタリア独裁のプロレタリア国際主義の内実の形成を展望し、帝国主義軍隊の政治的解体をめざすのである。

6/7↓6/21ASPAC―沖縄斗争の斗争戦術は、この様な位置づけの下に展開されたし、7/29ASPAC粉砕―三木訪豪阻止、中央実力斗争は、より拡大強化された斗いとして展開されなくてはならない。

日帝のアジア侵略反革命＝軍事外交路線は、全人民的な政治斗争の焦点として登場している。従ってこれと対決する斗い＝反戦斗争の全面的高揚が形成されることは不可避である。だが、この斗いを日帝のアジア侵略反革命粉砕↓日帝打倒、プロレタリア独裁の路線の下に、プロレタリア権力斗争として斗う我々は、この斗いの中で、未来のソヴィエトへの組織的萌芽、プロレタリア統一戦線を形成しなくてはならない。この方向性へ向けての組織戦術として我々は、SSL↓反戦斗争委員会、青年同盟↓地区反戦、職場反戦の建設をめざすのである。反戦斗争委員会（学生）、地区反戦、職場反戦（厳密にはブンド系地区反戦、職場反戦）の建設、組織化の過程に於いて、SSL、青年同盟（ブンドの下に建設さるべき）は、侵略反革命の軍事外交路線との対決を、日帝打倒＝プロレタリア独裁に至る過程として位置づけ、かかる方向性に於いてへプロレタリア権力斗争の方向性へ大衆を組織しなくてはならない。この下からの実体的ヘゲモニーの形成を以って、我々は全人民的政治課題に対して、政治斗争を斗う政党間統一戦線たる全学連―反戦青年委員会の主流派を掌握し、それをプロレタリア統一戦線に高めていくであろう。

今全学連大会は、正しくその第一歩である。

〈すべての社学同に結集する学友は17日正午迄上京のこと〉

Schedule

7月17日 社学同全国大会 於中大

社学同政治集会 於日仏会館ホール（予定）

18日 都学連大会 於早大

19日 全学連大会 於中大

20日 〃 於東大（安田講堂の予定）